

やぶと

主な内容

P1…西原中と共同フリマで義援金

P2…10月～12月活動報告

P3…10月～12月活動報告

P4…2012年4月たんぽぽが新しくなります

e-mail:tanpopo-happy3232@opal.plala.or.jp



平成23年11月29日(火)、西原中学校において同校の生徒さんとたんぽぽハウスから日本赤十字社西原分区に義援金が贈呈されました。去る11月20日(日)に行われた西原村ふれあい祭りにおいて、たんぽぽハウスと西原中学校生徒さんが共同で「東日本復興応援フリーマーケット」を出店しました。発起人の西原中学校1年生有志5人が全校生徒に呼びかけ、家庭で眠っている日用品などを持ってきてもらうようお願いし、全校生徒から沢山の日用品や文房具が集まりました。たんぽぽハウスでは、たんぽぽハウスの応援団員さん、村内の企業、お店などに呼びかけ沢山の日用品やお店の商品を提供して頂きました。フリーマーケットでは、5人の中学生が主体となり、値段付けから販売までを行いました。当日は雨上がりの肌寒い一日となりましたが、村内外から沢山のお客さんが見えになり、フリーマーケットも大盛況でした。売上金52,636円は、東日本復興の願いと共に全額、日本赤十字社西原分区に寄付されました。

昨年の震災以来、たんぽぽハウスと5人の中学生は共同で様々なバザーを開いては義援金を集めてきました。昨年の夏には、0円サマーキャンプとして福島の子供たちを受け入れた時は、中学生もボランティアとして共に行動し、福島の子供たちとも仲良くなりました。そうした経緯もあり、中学生もたんぽぽハウスも東北への思いが消えることはありません。東日本大震災から間もなく1年が経とうとしています。東日本大震災から間もなく1年が経とうとしていますが未だにその傷が癒える気配はありません。しかし、主体的に活動する中学生を見ていると一筋の光を見るような気がしてきます。寒く長い冬の雪の下からフキノトウが春の訪れを知らせてくれるように、子供たちの心にやさしさが育ってきています。そんな中学生と共にたんぽぽの仲間達も出来ることで東北をずっと応援していこうと思っています。

薩摩芋収穫応援隊

12月1日(木)、薩摩芋の収穫作業に沢山の応援隊が来て下さいました。熊本さわやか大学校から7名、熊本ホームレス支援の会から5名、その他、個人のボランティアさんや地元シルバーヘルパーさんなど大勢が駆けつけてくれました。この日は、朝からどんよりと曇り気温も下がって次第に雨となりました。小雨が降りだしたので「止めましょう」と声をかけると、「せっかくだから終わらせましょう」とボランティアさん全員が雨と泥で汚れながらもコンテナ40杯分のサツマイモを収穫して運んでくれました。ボランティアさんの頑張りにほたただだ頭の下がる思いです。たんぼぼに戻ると心ばかりの昼食を出させて頂きました。炊き込みご飯・だご汁・手作りコロッケ・煮しめ・サラダなど大変喜んで頂きました。



お歳暮作り



昨年、遅れて始動した為、御歳暮商戦に出遅れてしまったことを反省し、今年は11月からお歳暮作りと注文の受注を始めました。この時期は農作業の収穫時期で一年でも一番忙しい時期でもあります。その上、たんぼぼ製品のほとんどが手間のかかる地道な手作業となっていて大量生産することができません。それでも手を抜かず少しずつ丁寧につけていく御蔭もあって、毎年好評を得て年々注文が増加傾向にあり、大変うれしく有り難く思っております。そして今年も、183セットの注文を頂き、みなさんに大変好評を頂きました。これからも精進努力し、皆と良いものを作っていきたいと思えます。

子育て支援と交流

12月14日(水)、年に数回行っている子育て支援との交流会は今回、クリスマスも近いので「ピザ作り教室」をさせて頂きました。今回お母さん7人と子供さん11人、スタッフ4人が来られました。作業場ではお歳暮作りの真最中で使えないので食堂とキッチンを使って開きました。生地の発酵から焼き上がりまで45分で作る簡単ピザ作りを一家族二枚ずつ作ってもらいました。施設の中を走り回る子供達と格闘するお母さんや、念入りに一緒に作るお母さん、念入りにメモをとるお母さんなど様々でしたが、焼きあがったピザには歓声が沸き、ご自分の出来に大満足の様子でした。



りんどうの会のクリスマス会



12月21日(水)、西原村脳血管障がい者の会「りんどうの会」の皆様が訪問がありました。クリスマス会とのことで、たんぼぼ特製のお弁当を食べてもらい、その後ピザ作り教室を開きました。半身に麻痺の残る人が多い中、二人でコンビを組み、協力し合いながら生地をこねたり、ソースを作ったり、思い思いにトッピングをして、各自個性的なピザを作られています。たんぼぼハウスでは、半身不随の方々も料理当番をとって美味しい昼食を作られています。リハビリを兼ねたピザ教室は、驚きと美味しさの歓声が起り大好評でした。最後に、たんぼぼ最高齢の91歳と83歳のおばあちゃんがサンタに扮し、たんぼぼ製品をプレゼント。かわいいうサンタさんからのプレゼントに歓声が上がっていました。

年の瀬の風物詩餅つき

12月21日(水)、山西小学校で行われた餅つき大会にたんぼぼハウスも招待を受けました。たんぼぼハウスの最高齢の91歳と83歳のおばあちゃん達もお餅丸めの指導に行きました。父兄が搗いた餅を子供達が丸めていましたが、熱々の餅をシワ無く同じ大きさに丸めることは子供達には大変難しいことでした。そんな子供達に指導してくれるおばあちゃん達の作るお餅の美しさに子供達は感動し、尊敬の眼差しで見っていました。28日にはたんぼぼハウスでも餅をつき、各家庭で食べるお正月用のお餅をおばあちゃん達の指導のもとに丸めています。出来たお餅はパック詰めにし、たんぼぼの仲間達の家庭に配って回りました。



たんぽぽ活動報告10月～12月

落花生収穫応援隊

10月11日(火)、たんぽぽハウスの落花生の収穫に沢山の応援隊が駆けつけてくれました。熊本さわやか大学校から7名、熊本ホームレス支援の会から4名のボランティアさんが来られ、仲間達と落花生の収穫作業をしました。落花生は、株ごと引き抜いて4・5株をまとめて逆さにし、そのまま畑で乾燥させます。これを「地干し」といい、約一週間乾燥させてから脱粒します。すぐ傍の電線にはすでに数羽のカラスが様子をうかがっていました。落花生はカラスの大好物で、今年の種まき時期にカラスに種を随分食べられてしまいました。同じ失敗を繰り返さぬように同時にカラス除けのテグスを張りめぐらししました。今年は天気も上々で、作付面積も広がった分、今までにない大豊作でした。



たんぽぽ棚田稲刈り



10月19日(水)、たんぽぽハウスの稲刈りを行いました。一週間ほど晴天が続いた絶好の稲刈り日和でした。たんぽぽハウスの田んぼは、山の斜面に造られた棚田で西原村でも一番おいしいお米が取れる所です。仲間達は、それぞれに鎌を持ち、田んぼの四隅(コンバインがターンするところ)を手刈りしました。4反の田んぼの稲刈りは、棚田ということもあり、手刈りの部分がかなりあります。その上、猪が這いまわった跡があり随分稲を倒されています。4反の稲刈りに1日かかってしまいました。晴天の中、汗をかいた体に吹く秋風が心地よい一日でした。

下小森ふれあい感謝祭

11月6日(日)、西原村下小森地区において「下小森ふれあい感謝祭」が行われました。たんぽぽハウスのすぐ傍の地区ということもあり、毎年誘って頂いています。しかし、この日はあいにくの雨天。例年は、公民館隣の稲刈り後の水田を利用して、綱引きや玉入れ、フリーマーケットが行われる賑やかなお祭りですが、それらは中止となり公民館でのカラオケ大会のみとなりました。それでも地元の方は傘を差してカラオケ大会にお見えになり、公民館の中は大変盛り上がりっていました。たんぽぽの用意したお好み焼きや焼き鳥、五目おにぎりなどもわざわざ外に買いに来て下さり、おでんなど無料でご馳走になりました。地元の皆様、いつもありがとうございます。



西原村ふれあい祭り



11月20日(日)、西原村ふれあい祭りが催されました。西原村役場主催の一年で一番大きなお祭りです。今回は、西原中学校生徒さんとのコラボ企画「東日本復興応援フリーマーケット」も隣のテントでさせて頂きました。西原中学校生徒さんとたんぽぽハウスがそれぞれで集めた品物に値段を付け、その売上金全額を寄付させて頂いたものでした。たんぽぽハウスが当日お好み焼きとうどんを販売する中、隣では中学生の元気の良い掛け声が響いています。企画立ち上げから全生徒徒への呼びかけ、前日の値段付けと元気一杯に動きまわる西原中学校有志の姿に心を打たれ、今の子供たちを頼もしく思いました。

球磨地域民生委員視察

11月24日(木)、球磨地域民生委員会長視察研修でたんぽぽハウスに11名が来訪されました。まずは、西原村民生委員会長の増永さんから西原村民生委員の現在の活動状況の紹介があり、民生副会長の坂本さんからたんぽぽハウスの立ち上げに西原村の民生委員がどのように関わったのか話をして頂きました。その後、施設長の上村からパワーポイントを使ってたんぽぽハウスの活動報告をさせて頂きました。球磨地域の民生委員さんから熱心な質問が相次ぎ、1時間の予定が2時間と大幅に延長してしまいました。また、たんぽぽ製品の地域性を生かした加工品づくりを紹介すると「早速帰って自分達の村の作業所に提案してみよう。」と言われていました。地元民生委員さんと地域の作業所との情報の交換が閉じこもりの方などを減らすカギとなります。是非情報を流して頂きたいとお願いました。





たんぽぽお歳暮セット 大好評のうちに終了!

THANK YOU

ありがとうございました!



(写真はお歳暮セット 2011 の中身です。)

今回の御歳暮セットは、各方面から大変に好評を頂き、前年を上回る注文を頂きました。たんぽぽハウス一同お礼を申し上げます。「種まきから製品作りまで」をコンセプトに、安心安全で美味しいものを届けようと一つ一つ丁寧に作りました。これからも丁寧なモノづくりに取り組んでいきます。お歳暮セットの製品は、萌の里、有機生活、ホームセンターサンコーなどでもお求めになれます。(一部製品を除く)また、直接たんぽぽハウスにご連絡頂ければ発送も承ります。これからもどうぞよろしくお願ひ致します。

2012年4月 たんぽぽハウスが新しくなります。



2005年に西原村社会福祉協議会で行われたワークショップから始まったにしはらたんぽぽハウスも来年で7年目を迎えます。仲間の数も増え、現在27歳から91歳まで登録者数22名の大所帯になりました。そこで、来年の4月をめどに「地域活動支援センターにしはらたんぽぽハウス」と「就労継続支援B型事業所」の2つを開設することに決めました。「就労継続支援B型事業所」とは、利用者の方の自立した日常生活又は、社会生活を営む事が出来るように就労の機会を提供し、生産活動やその他の活動の機会の提供を通じて知識及び、能力の向上の為に必要な訓練を行うもので、今後は、就労支援を推進するとともに、工賃アップを目指し、4月開所に向けて現在、熊本県・西原村との調整に入っています。新商品の開発や、販売所の確保等、仲間達と共に新しい目標に向けて頑張っていると思っております。どうか温かく見守って下さい。

ある年の暮の話でした。「お正月はどうするの?」との問いに、寂しそくに話しました。その時、私は埼玉県に十一年一人暮らしをしてきたことを思い出しました。そういえばあの頃、大晦日とお正月にはあまりいい思い出がなかった。クリスマスは友達と過ごせても大晦日とお正月は皆家族と過ごすもので、実家に戻らなかつた私は、一人でつまらなかつたことを思い出しました。そこで、食堂を開放しコタツを敷いて大晦日とお正月に希望者受け入れることにしました。3〜4人で簡単なお鍋でもしようと思っていました。当日、ボランティアさんも含めて15人以上が集まり、手打ちそばや、お節料理まで並びました。紅白が始まり、皆で歌を歌っていたら、ある仲間が「こんなに楽しい大晦日は久しぶりです。ありがとうございます。」と喜んでいました。やはり紅白は一人で見るとものじゃありません。

(編集委員 久保田)

編集後記



たんぽぽハウスでは毎月10日にお給料を手渡ししています。渡せるお給料は本当に少なく、皆には申し訳なく思っています。仲間達は少なくお給料に文句を言うこともなく、いつも笑顔で受け取ってくれます。そして毎日仕事に真摯に向かい合い、誰も見せない所でも自分の出来るせい一杯してくれまます。その姿勢には、いつも頭が下がります。私達は彼らから学ばなければならぬことがまだまだ沢山あります。

たんぽぽな風景 その3

1月~3月行事予定	
1月	1~5日 お正月休み 18日 職員希望者面接 22/23日 慰安旅行
2月	4/5日 冬あかりバザー 16日 山西小学校交流会 26日 のぎく祭りバザー
3月	8日 山西小学校交流会 13日 シンポジウム 15日 子育て支援交流会 22日 小学校卒業式